

芦屋市環境処理センター運営協議会(4/25)からの意見等

項 目	意 見 等	対 応 ・ 考 え 方
施設計画 (神戸市との 広域処理)	中継施設の整備について、「中継方式」「運搬車両動線」「臭気対策」の計画内容は、他自治体の整備事例の調査・研究も行いながら検討してほしい。	「中継方式」については、複数の方式の比較検討を行い、経済性やパイプライン施設との接続の容易性等に基づき[既存ごみピット改造方式]を採用することとしています。「運搬車両動線」については、プラットフォームへの車両軌跡の確認も行っており、運搬車両へのごみ積込作業や運搬の時間帯(午後を想定)の設定も含め検討を進めていきます。
	神戸市への運搬車両は、1日当たり何台の運行を考えているのか。また、車両が通行する阪神高速湾岸線について、南芦屋浜地区内で防音壁の未設置箇所があるため、市から阪神高速に対し防音壁の設置を要望してほしい。	1日当たり15台程度の運行を想定しています。 防音壁の設置に関する要望については、本市の環境行政を所管する部署に伝えることとします。
	神戸市所有の処理施設で、ごみを処理することとなるが、水銀含有などの危険ごみの分別が徹底されるのか不安である。	指定ごみ袋の導入を始めとして、ごみ分別に関する啓発を強化してきており、市民の皆さまのご理解・ご協力を得ていきたいと考えています。
多面的価値	リチウムイオン電池やスプレー缶の混入に起因した火災が発生している。廃棄物処理施設は、火災等危険な状況の発生も想定されるため、多面的価値の創出(整備等)にあたっては安全の確保を考えてほしい。	貴重なご意見としていただきたいと思います。
	大阪で開催された花博会場の鶴見緑地は、ごみ等を活用して築山を造成している。本市での整備についても、同様に、ごみを活用し盛土を行い、浸水対策やヘリポート設置につなげてはどうか。	浸水対策は、「災害対策計画」の中で検討を進めています。また、ヘリポートは、芦屋市総合公園と芦屋中央公園の2箇所を設定しています。
	焼却施設を中継施設にすることで発電ができず、EVパッカー車の導入もできないとのことであるが、発電の有無とは関係なく導入してはどうか。	EVパッカー車の導入は、災害発生時に活用できることから有効であると認識しています。なお、パッカー車の種別については、今後、検討が必要になってくると考えています。
災害対策計画	浸水対策として確保すべき安全性の目標が多段階で設定され、そのうち“多少浸水するが施設の機能は維持される。”対象の施設として“ごみピット等”を掲げているが、浸水に伴い一つの設備が故障すると他の設備運転にも影響する。つまり、浸水させないことが原則であると思う。	ご意見を参考に、検討を進めたいと考えます。 ※現在の計画内容に関する参照図書 『廃棄物処理施設の耐震・浸水対策の手引き (環境省、令和4年11月)』
その他	リチウムイオン電池の分別方法について、周知が不足していると思う。当該電池の写真等を利用するなど、目に見える方法で啓発してほしい。	広報紙・ホームページ・SNSを通じ、さらに啓発に努めていきます。